

2022年2月

## 日本 AALA ウクライナ関連資料

駐日ロシア大使館御中

**ウクライナにたいするロシアの軍事侵攻を強く非難し、  
軍事行動の即時中止を求めます**

2022年2月25日

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

ロシアはウクライナ問題の外交解決をもとめる国際世論を無視して、24日からウクライナ全土への大規模な軍事侵攻を開始しました。これはウクライナの主権と領土を侵す侵略行為であり、国際関係において「武力による威嚇または武力の行使」を慎むよう求めた国連憲章と国際法の明白に違反するものです。

ロシアがどのような口実を主張しようとも、法と人道に反する今度の行為を正当化することはできません。軍事侵攻によって民間人を含む多くの犠牲者がでていと伝えられています。私たちは、このロシアの行動を強く非難し、ロシア軍に軍事行動を即時停止し、撤退するよう求めます。

プーチン大統領は侵攻にあたっての演説で、軍事侵攻の目的を、ウクライナの「脱軍事化、非ナチス化」とのべています。これはウクライナの主権と独立を全面的に否定する覇権主義的態度であり、断じて認めることはできません。

プーチン大統領はまた、ロシアが核兵器大国であることを誇示し、反対する諸国や世論をけん制し核兵器で脅迫する姿勢をみせました。今日の世界で絶対に許されない行動であり、強く非難します。

(以上)

2月16日

## 米口は戦争回避を＝ウクライナからの平和メッセージ

ウクライナの平和団体の代表が2月16日、米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」に出演し、米国とNATOの双方に、「ウクライナ国内の政治対立に介入して対立をおおるのをやめよ」と訴えました。

同国の「平和主義運動」のユリ・シェリアジェンコ事務局長は、以下のようなメッセージを読み上げました。

.....

### 対立を煽ってはならない

ウクライナのゼレンスキー大統領は2月16日、ロシアからの軍事攻撃が差し迫っているとしてこの日を「国民団結の日」にすると愛国をよびかけました。しかし、これは本当の祝日ではありません。

彼は「我々は大戦争の脅威にさらされている。軍事侵攻の日が決められた」といって、このメッセージを司令部に伝え、政府関係者や忠誠を誓う人たちに、国旗をふって国歌を歌うよう指示しました。大統領はこういう言い方もしています。「我々はウクライナ軍に全幅の信頼をおいているが、軍隊には国民の支援と結束、団結が必要だ」。

しかし、**私たちウクライナの平和主義運動**は、こういうよびかけに納得できません。ウクライナ軍に信頼を置くことはできないし、現在の危機に軍事的解決策はありえないと思います。

ロシアはウクライナとの国境近くに軍を集結させ、NATO諸国もウクライナ周辺に軍を増強しています。双方ともこれは訓練だと言い、ロシアは侵攻の意図を否定していますが、「ウクライナ（政府）が軍事力でクリミアやドンバスを支配しようとする企ては許されない」と警告しています。

西欧メディアは戦争が差し迫っているとしていますが、予断はできません。私の友人のデビッド・スワンソン（アメリカの平和運動家）は、ロシアの侵攻が迫っているというのは嘘だと反論しています。欧米の政府は、予測される大規模な流血をさけるため、外

交官や市民だけでなく軍事顧問まで呼び戻しています。

ロシアのメディアは、プーチン大統領が（ウクライナの）分離主義が主張するドネツクとルハンスク共和国の独立を認める提案を用意したと報じていますが、そんなことをすれば、（ウクライナ政府軍と国内の新ロシア派分離主義勢力との停戦についての）ミンスク合意はご破算になり、さらなるエスカレーションにつながるでしょう。

ロシアのメディアは、「ウクライナ側がミンスク合意を遵守していない」と非難しています。また「米国や NATO は軍事援助や政治支援を強めてウクライナ軍に武力でドンバスの支配権を回復させようとしている」といっています。

ゼレンスキー大統領は平和を約束して 2019 年に当選しましたが、「平和は我々の主張が受け入れられることが条件」だといって、ドンバスの親ロシア派分離主義者との中身のある交渉を拒否しています。こんな態度では軍事的エスカレーションを引き起こしません。

前任者のポロシェンコ（前大統領）はロシアの SNS を封鎖しましたが、ゼレンスキー政権はウクライナ国内の親ロシア派メディアを封鎖しました。公用語法を制定して公共の場からロシア語を強制的に排除しました。

こういう措置によって、平和と正義について国民が対話をすることができなくなり、民主的な協議が軍への盲信に変えられてしまいました。そして分断した社会と国民の団結を、軍事力で回復しようという妄想に駆り立てているのです。

## **ゼレンスキー政府の軍国主義**

ゼレンスキー大統領の与党「国民の奉仕者」は、軍事費を GDP の 5% に引き上げることを約束しました。2022 年度予算では、軍事費を GDP の 6% に増加させました。今年、ウクライナでの NATO 軍事訓練を 10 回もおこなって、米国と英国によるウクライナへの軍事基地建設を喜んで受け入れました。

国会で多数を握った大統領派は権力をゼレンスキーのチームに集中させ、軍国主義的な法律をどんどん制定しています。例えば、徴兵逃れをした人への厳罰や新たな国民抵抗軍の創設です。

ウクライナ軍の人員を 11 万 1 千人増員し、地方自治体に軍事部門を創設して数百万人を強制的に軍事訓練するなど、ロシアとの戦争の際に全国民を動員することをめざしています。

欧州の良心的徴兵拒否の年次報告書「Conscientious Objection in Europe 2020」によると、ウクライナでもロシアでも、もちろん分離主義の人民共和国はもちろんですが、徴兵拒否が法的に認められ、その信念が保護される機会はほとんどありません。兵役以外の代替手段は利用できず、差別的で懲罰的な性質はわかりません。このように、いまの軍事力増強と、ウクライナの全住民をロシアとの戦争に動員しようとするゼレンスキー政権の企てによって、わが国の民主主義と人権が大きく損なわれています。

### **ウクライナは中立であるべきだ**

ウクライナで大規模戦争にむけてのエスカレーションは必要ありません。ウクライナ政府は、世界的な権力争いの中で西欧の側につきましたが、これは無謀です。私たちは中立であるべきだと思っています。

普遍的な平和にコミットすべきです。ウクライナ人は世界のすべての人々と同じように、平和に暮らし、幸せになることを望んでいます。西側と東側の大国は両方とも責任があります。ウクライナの戦争が拡大して周辺に広がることを避け、このような不条理な政治的争いのために地球上の生命を絶滅しかねない核兵器を放棄する責任です。**すべての政府が核兵器禁止条約に参加すべきです。**

世界の指導者たちが、誠意を持って持続可能な平和を交渉しないで、責任を他になすりつけ、ウクライナという局所的な場での権力争いを暴力的に解決させようとしています。本当に恥ずべきことですが、残念ながら今、ウクライナは米露間の新冷戦の戦場となってしまいました。

(以下は質疑応答)

2月23日

デモクラシー・ナウ

アイラ・ヘルファンドとのインタビュー

「ウクライナと核戦争のリスク」 (要約)

アイラ・ヘルファンドは IPPNW の前会長で、核兵器廃絶国際キャンペーンの国際運営委員。最近“TheNation”に「ウクライナと核戦争の脅威」が掲載された。

**インタビュアー (エイミー・グッドマン) のイントロダクション：**

プーチン大統領がウクライナ東部の2つの分離地域の独立を承認した。バイデンはこれを「ロシアのウクライナ侵攻の始まり」と非難した。

ウクライナ東部の紛争では、過去8年間に14,000人が死亡した。今回、プーチンは、分離主義者が支配する地域に「平和維持」軍を派遣すると語った。

国連のグテーレス事務総長は、こう語った。

「ある国の軍隊が同意なしに別の国の領土に入るとき、彼らは平和維持軍ではありません」

ロシアの発表を受けたウクライナは、非常事態を宣言した。

米国は、800人の米軍兵士を搭載した8機のF-35戦闘機と20機のアパッチ攻撃ヘリをバルト海に派遣すると決めた。別のアパッチ攻撃ヘリ12機がポーランドに向かった。

戦争の可能性が高まるにつれ、ひとつの重要問題、「ウクライナをめぐる紛争は核戦争につながる可能性があるのだろうか」が浮かび上がってくる。

それはメディアではめったに議論されないものだ。

.....

**Q: 今、何が危機にひんしているのだろうか？**

**ヘルファンド：**

問題は多岐にわたります。重要なことは通常戦争がうまくいかない場合に、核兵器を使うオプションが机上に乗っていることです。核兵器が使用される可能性は排除されていません。

核が使用されたときの効果は壊滅的です。

100キロトンの原爆1つでもクレムリン上で爆発すれば25万人が死亡します。ワシントンの国会議事堂上で爆発すれば、10~17万人が死亡します。

これが核兵器となれば状況は壊滅的です。ロシアが持つ1,500の核弾頭のうち、300発が米国で爆発した場合、最初の30分で1億人が亡くなるでしょう。

国家と社会を維持するためのものはすべてなくなってしまうでしょう。これらは単なる直接的な効果です。

その後、世界的な気候災害になるでしょう。

1億5,000万トンのチリが大気に放出され、太陽を遮り、地球全体の気温を18度下げます。それは最終氷河期以来のものとなるでしょう。

生態系は崩壊し、食糧生産は停止し、人類の大多数は餓死するでしょう。

これが私たちが直面していることです。そして、核兵器の存在を許す限り私たちが直面し続ける危険です。

**Q: そのような事態が現実となる可能性はどの程度のものか。**

**ヘルファンド:**

可能性は至るところにあります。

ロシアには1,500の戦略弾頭、2,000の戦術弾頭があります。米国には1,500の戦略弾頭があり、ヨーロッパに100発の戦術弾頭が配置されています。その他英国には120発、フランスには280発の核弾頭が配備されています。

これらのどれもが核戦争を引き起こす可能性を持っています。

戦争が始まると「戦場の霧」と呼ばれるものが発生します。戦争前の計画はそれぞれ無関係になり、人々も軍隊も接触を失います。その結果、予期しないことが起こります。

バイデン大統領は、米国がウクライナに派兵する予定はないと述べていますが、絶対確実であるという保証はありません。

イラクでは大量破壊兵器はなかったのに戦闘が開始されました。米国が紛争前に描いた戦争計画とはまったく違った経過となったのです。

**Q: プーチン発言の真意**

問題は「不確実性」の一般的な議論にはとどまらない。2月8日にプーチン大統領は、ウクライナがNATOに加盟すれば、核戦争の可能性が高くなると警告した。これは確実な事実ではないか？

## ヘルファンド：

彼の言明は微妙なものです。

...I want to stress this one more time. I've been saying it, but I very much want you to finally hear me and deliver it to your audiences in print, TV and online.

Do you realize that if Ukraine joins NATO and decides to take Crimea back through military means, the European countries will automatically get drawn into a military conflict with Russia?

Of course, NATO's united potential and that of Russia are incomparable.

We understand that.

But we also understand that Russia is one of the world's leading nuclear powers and is superior to many of those countries in terms of the number of modern nuclear force components.

There will be no winners.

わたしは、この言明の鍵となるのは「勝者はいないだろう」ということだろうと思います。

双方が核の優位を巡って鞘当てするのは今に始まったことではありません。NATO とロシアはその境界線上で核保有軍の演習を繰り返しています。そして、核戦力を強化するために莫大な金額を費やしています。

これは率直に言って非常識です。私達が核の時代を生き抜いてこれたのは、幸運だったという理由だけです。そして各国の現在の政策も、本質的に幸運の継続への希望にのみ依拠しています。

## Q： 原発攻撃ないし原発事故の危険

もう一つの核の脅威が原発への攻撃ないし誘発事故だ。

ウクライナのエネルギーはかなりの部分が原子力発電所によるものだ。1986年にメルトダウンが発生したチェルノブイリもウクライナだ。

ウクライナは合計 15 基の原子炉を備えた 4 つの原子力発電所を運営している。それらはすべて、チェルノブイリ 4 号機よりもはるかに古いものだ。

これについての考えを聞かせてほしい。

## ヘルファンド：

原発を破壊するには、戦闘で直接ヒットする必要はありません。福島で起こったように、電気が失われると、冷却障害とメルトダウンが発生します。

**原子炉というものは、本質的に、私たちが作成して運用し、敵が爆発テロのために利用できる「潜在的な大量破壊兵器」です。**

ウクライナは、電力の50%をこれらの原子炉に依存しています。このために非常に困難な状況にあります。これらの原子炉は、紛争が広がると非常に脆弱になります。

いずれか1つでメルトダウンが発生すれば、直接的な放射線被爆、放射性物質で汚染された広大な地域、多くの被曝者、多くの死者、多くの癌患者が発生するでしょう。

**Q: 最後に、核兵器廃絶の課題との関連についてご意見を**

**ヘルファンド:**

私はバイデン政権に特に批判的であるというわけではありません。これは核兵器を持っているすべての政府の問題だと思います。

私たちはこれまでずっと、世界の指導者たちが核兵器の危険性に無知であることにショックを受けてきました。彼らの多くは、核兵器によって引き起こされる損害について無頓着です。

核そのものの危険性だけでなく、この無知と無頓着がもたらす危険性について指摘することは重要です。この点について指導者や一般市民を教育することは、特に医師の運動の重要な一部だと私は思います。

私たちが理解する必要があるのは、核兵器が私たちの安全に対する最大の脅威であるということです。

人間社会の一員としての私たちは、これらの兵器をできるだけ早く排除することを要求します。

**私たちの運は永遠に続くことはありません。** 私たちがそれらを取り除けなければ、遅かれ早かれ、これらの武器が使われるでしょう。

それを理解し、その理解に基づいて行動を起こさなければなりません。